

あさの ちゃんねる

医療法人社団 浅ノ川

浅ノ川総合病院 広報誌 2015 年秋号(年 4 回発行)

元気のある病院
元気のでる病院



当院の医療連携への取り組み

—かかりつけ医制度が進むなかで—

事務長 谷 寛憲

団塊の世代が75歳となる2025年を見据えた医療制度改革が、病床の機能分化、医療連携・医療と介護連携・在宅医療など「効率的かつ質の高い医療提供体制の構築」と「地域包括ケアシステムの構築」を目指して進められています。

このようななかで、当院は総合病院として、500床の病床（急性期病床：237床、地域包括ケア病床：53床、回復期リハビリ病床：50床、呼吸器疾患に特化した障害者病床：50床、医療療養病床：110床）を有し、急性期から慢性期の医療に取り組んでいます。

特に、現在の大西病院長になってからは、①医療連携の推進と②救急医療の充実を病院運営の大きな柱として地域医療に貢献すべく、病院が丸となって取り組んでいます。

医療連携においては、お蔭様で現在263の医療機関や施設等と連携をさせていただいており、近年紹介患者もグラフ（図1）のように順調に増加してきています。

当院における医療連携は、言うまでもなく囲い込みの医療連携ではなく、国が進めている“かかりつけ医制度”のなかで、地域の病院や診療所とそれぞれの機能を分担した、患者中心の医療連携を目指しています。

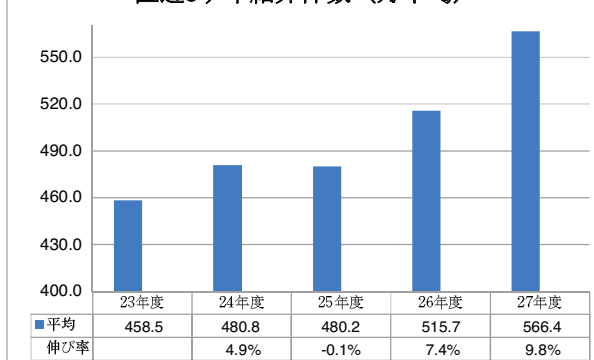
つまり紹介頂いた患者さんは、原則、紹介元の医療機関にお返しする逆紹介を前提とした医療連携を基本としています。

また、病院や診療所からの紹介ではなく、直接当院を受診した患者さんでも、診断の結果、治療方針が確定し、投薬治療などの通院治療を中心とする患者さんについては、患者さんの意向を聞きながら、近くのかかりつけ医への紹介を積極的に進めています。

これからも、当院は地域の基幹病院として、近隣の医療機関や患者さんから信頼され、選ばれる病院として地域に貢献していきたいと考えています。

図1

直近5ヶ年紹介件数（月平均）



病院の理念

「皆様の信頼を得る、思いやりのある医療を提供します。」

病院の方針

1. 新しい知識と技術を身に付け、質の高い医療を提供します。
2. 患者の皆様によさしい、活気にあふれる病院を目指します。
3. インフォームドコンセント(説明と同意)に基づいた治療を行います。
4. 地域の医療機関との連携を深め、地域医療の充実に貢献します。
5. 安全性を考え、責任の持てる医療を提供します。

リハビリテーション科紹介 一病状が落ち着いたら回復期病棟へ

浅ノ川総合病院のリハビリテーション科は、染矢滋先生が平成20年に当院に赴任し開設されました。現在は染矢滋部長、山下純宏顧問、井戸一憲医長の3名で診療を行っています。

当院は急性期病床、地域包括ケア病床、回復期リハビリ病床、医療療養病床をあわせ、500床を持つ総合病院です。

リハビリテーションセンターとして、医師、療法士60名が、急性期から回復期、生活期を通じて、入院時から退院、退院後の自宅生活までのすべての病期でリハビリテーションを提供できる体制となっています。

急性期病床では手術直前後の呼吸訓練から、術後離床していくリハビリ、疾患に応じて運動麻痺や構音障害、嚥下障害、日常動作面でのリハビリなど、患者さん個々の状態を把握し、危険因子を見極めながら看護師やコメディカルと密接に連携を取りながら患者さんの機能向上をはかって行きたいと考えています。

リハビリテーション科は回復期病棟を主に担当します。回復期病棟は急性期での病状が落ち着いた時点で入棟いただく病棟です。1日最大3時間のリハビリを365日積極的に行います。急性期病棟リハビリによって改善した身体機能が日常生活動作に結びつき、発展して行けるように、毎日の病棟での生活を自宅生活と想定し、リハビリで「していること」が毎日の生活で「できること」になるように支援を行っています。

当院回復期では、他院急性期からの転院患者さんを積極的に受け入れています。ご質問、ご見学、ご相談ください。

！ 入院の対象となる患者さんの疾患等について

対象 ①

脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷等、発症2ヶ月以内の方

対象 ②

大腿骨、骨盤骨折、2肢以上の多発骨折等の発症または手術後2ヶ月以内の方

対象 ③

外科手術または肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後2ヶ月以内の方

対象 ④

大腿骨、骨盤、脊髄、股関節または膝関節の神経、筋または靱帯損傷後1ヶ月以内の方

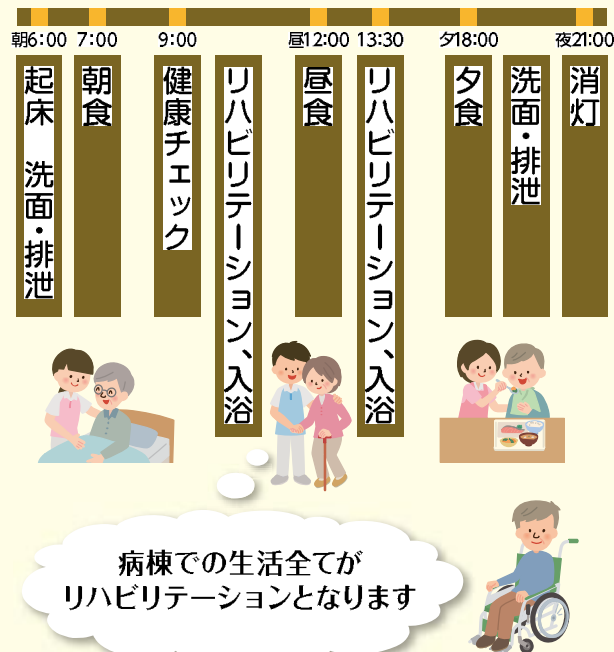


ご本人・ご家族とも自宅で暮らす意欲をお持ちの方

入院期間について

対象疾患に応じて入院できる期間が異なります。対象①の患者さんは180～150日、対象②③の患者さんは90日、対象④の患者さんは60日が上限となります。

患者さんの一日



生活期では、あさのがわ訪問リハビリ・訪問看護ステーションに理学、作業、言語療法士が配置され、訪問リハビリテーションを提供しています。回復期から自宅退院する際の、不慣れ、不安を解消していただけるようになりました。

浅ノ川総合病院が提供する地域包括ケアシステムの一員として、安心安全を提供できるように努力していききたいと思います。

訪問看護・訪問リハビリ

ご利用できる方…金沢市、津幡町、内灘町、かほく市にお住まいの方

介護保険の場合 要支援または要介護認定を受けられている方

医療保険の場合 介護保険による訪問看護対象外の方

*要支援・要介護認定を受けられている方でも、下記の①又は②に該当する方は医療保険での対象となります。

①厚生労働大臣が定める疾病の方

②急性増悪等により、一時的に頻回の訪問看護を行う必要のある方

特別訪問看護指示書が必要(月1回:14日間が限度)

連携登録医のご紹介

今回は、金沢市森山町の『森田医院』をご紹介します。

今年4月より南7区の森田医院に勤務しております 山下 陽子と申します。小児科、アレルギー科が専門です。平成16年に富山医科薬科大学(現富山大学医学部)を卒業し、初期臨床研修を経て、今年3月まで金沢医科大学小児科で勤務しておりました。

当院は、昭和31年に開業して以来、地域のかかりつけ医として生活習慣病や禁煙外来などを中心に診療してまいりました。浅ノ川総合病院の先生方にはいつも大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

この度、内科・小児科に加えてアレルギー科を新たに開設いたしました。近年、アレルギー疾患でお困りの方が増えています。当院ではアレルギー検査を行い、乳幼児からご高齢の方まで、食物アレルギーや気管支喘息、アトピー性皮膚炎、花粉症などの疾患に対応させていただいております。

今後も、さらに地域医療に貢献できるよう努めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



〔 副院長 ^{やました} 山下 ^{ようこ} 陽子 先生 〕

医療法人社団 森田医院

院 長：森田 正人

副院長：山下 陽子

診療科：内科、小児科、アレルギー科、禁煙外来

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~18:00	○	○	○	※ ₁	○	※ ₂	/

※₁ 12:00 まで ※₂ 15:00 まで

休診日：木曜午後、日曜、祝日

◆アレルギー科：

木曜日以外の曜日に診療しています(予約不要)

◆予防接種・検診は随時承っております

住 所：〒920-0843

石川県金沢市森山1-1-22

電 話：076-252-0613

駐車場：あり



連携登録医

地域の医療機関と浅ノ川総合病院の相互連携を一層緊密にし、適切で切れ目のない医療の提携を目指して新たに開始された「連携登録医制度」に登録していただいている医療機関の先生方です。

部門紹介：産科センター

当院へ立地センターで
誕生した赤ちゃんたち

6・7月
生まれ



妊婦健診では4D画像も行っています。
運がよければ、こーんなかわいい赤ちゃんの顔を見ることができますよ♡



8・9・10月
生まれ



生後3日目
ママにお風呂に入れてもらってます♪



総参加者数
1,500人突破!

講演料 無料!

地域の皆様へ「出前講演」好評開催中!

当院は地域の皆様との交流、健康づくりに対する意識と知識向上を目的に、医師、看護師、薬剤師、リハビリ技士等職員が地域の公民館や企業・団体等に伺って健康に関する講演を行う「出前講演」を行っております。

平成27年10月7日(水)には当院看護師による出前講演「備えあれば憂いなし ～身に付けよう心肺蘇生法～」を上村電建株式会社(金沢市)にて行いました。



看護師の指導のもと、社員が実際に心肺蘇生法、AEDの実技演習を行いました。(上村電建株式会社にて)

このように当院では、高血圧、糖尿病、がん、てんかん、白内障など病気のお話から、ジェネリック医薬品との付き合い方、健診、運動による腰痛・膝痛予防、食事療法、感染予防、介護、認知症との向き合い方まで、多種多様なプログラムパンフレット(現在60演題)をご用意しておりますので、皆様が知りたい、興味がある講演についてお気軽に申し込みください。



女性大学「スマイルスクール」



ミニキッズニアにて



介護者のつどい

出前講演の流れ



- 1 出前講演申込書 (FAX) にて申込み
※原則開催日2ヶ月以上前まで。
- 2 スケジュール調整、打合せ
- 3 出前講演開催
※開催会場の手配は申込者によりお願いします。

「出前講演」の詳細は当院ホームページ(<http://www.asanogawa-gh.or.jp/medical/cmcd>)をご参照していただくか、地域医療連携室までお問い合わせください。

ふれあい感謝祭2015 開催しました!

2015年10月23日(金)・24日(土)、恒例の「ふれあい感謝祭」を当院で行いました。

骨密度、血糖値などを無料で測定する健康チェックには、190名を超える方に参加していただき、大好評に終わりました。今年も、看護師・管理栄養士などによる健康相談や栄養指導では、日頃の生活習慣や食事などについて、熱心に聞かれる来場者の姿が多く見受けられました。

公開健康講座では、外科 尾島英介先生による「大腸がん治療について」と題した講演会を行いました。来場者からは「今日来て良かった、また来ます」「とっても参考になりました」「とても分かりやすく丁寧な講座で検診早期発見の重要性を強く感じます」などのコメントをいただきました。

恒例のリハビリテーション部佐藤さんのコンサートでは、なつかしの曲から話題の曲まで、多くの来場者が歌と演奏を楽しめました。

当院では今後も、このような行事を通じて地域の皆さんと交流し、当院の広報部長「あさのちゃん」共々愛され、信頼される病院を目指していきたいと思います。今後とも、皆様のご来場をお待ちしております。



公開健康講座



外科 尾島 英介 先生

健康チェック・健康相談コーナー



ミニコンサート

リハビリテーション部 佐藤さん



10月11日(日) 小児科輪番当番医について

当院で初めて小児科輪番当番医（小児科救急外来）を行いました。朝9時に受付を開始して夕方6時まで80名以上の患者さんが来られました。当日は、通常通り診療会計を行い、診察は本館2階脳神経センターで行いました。次回は来年1月2日（土）に行いますが、これからも当院は地域から信頼を得られる医療を提供できるよう努力していきます。



小児科輪番当番医とは…

小児科をもつ病院が輪番により本来診療していない時間帯に小児救急外来として診察すること。

認知症看護認定看護師に聞きました！



本館4階
かわしま ゆかこ
川島 由賀子 副看護師長

Q1：認知症看護認定看護師について教えてください。

A：認知症の方の看護は、その方の生命、生活の質、尊厳を尊重し、認知症の発症から終末期に至る病状管理、療養生活環境を提供する看護実践です。病院に入院された認知症の方と接する中で、急な環境の変化になじめずに混乱し、戸惑っている場面で、どのように接すればいいのか分からず戸惑うことが多くありました。また、日々の業務に追われるなかで、認知症の方の周辺症状に対応できず、その方が何を思い、何を望んでいるのかということに気を配ることができずにいました。そんな中、祖母が認知症になり、今までできていたことができなくなったり、分からなくなったり、祖母ばかりでなく家族も混乱していくことにショックを受けました。その時、認知症という疾患に興味を持ちました。せっかくなら専門的に学びたいと思い、一念発起し、日本看護協会看護研修学校認定看護師教育課程へ入学しました。入学しなければ出会えなかった仲間と過ごした8か月間は、私の財産であり、励みでもあります。

Q2：どのような活動をしていますか？

A：現在は、学んできた知識と認知症の方に起こっている現象を照らし合わせながら実践をしています。認知症の方とその家族との出会いを大切に、一人ひとりじっくりと向き合い、何を思っているのか、何を望んでいるのかを考えながら、かかわるようにしています。そして、認知症の方が安心して入院生活を過ごせることができるためには、どのようなケアがよいのかを考えながら活動しています。今年度から、認知症ケアを語る会＝^{ミンナ}minna caféを開催しています。月1回時間外ですが、認知症について語り合う場を設け、日頃のケアでの困ったことや、取り組んだケアを振り返っています。その場での語りは一つ一つが宝の山（ちなみに、スペイン語でminaは宝の山+みんなでminnaと造語を向井看護師長と考えました）です。興味のある方は是非ご参加ください！

Q3：最後に一言

A：『認知症看護認定看護師の川島さん』という着ぐるみを少しずつ、自分らしく着こなしていけるようになってきたと思います。そのポケットに得た知識や技術、情報をいざという時に使えるように、様々な方とのかかわりを大切に、得たものを何らかの形で病院や地域に還元していきたいです。今後も増えていく認知症に対し、何も分からなくなってしまう、何もできなくなると大変だ！困った！というマイナスイメージが強いため、認知症を怖い病気という認識になっているように感じます。確かに分からなくなったり、できなくなったりすることで、生活に支障がでます。しかし、できること、分かることはたくさんあります。「認知症になってもいいじゃない、できることはたくさんある」とイメージすることが今後の高齢社会のあるべき姿であり、少しでも認知症のイメージを変えていければと思います。

トピックス 看護部制服紹介

看護部職員のユニフォームが変更になりました。

当院には看護部職員が約460名在籍しています。

その看護部職員のユニフォームが、7月以降随時変更になっていることに皆さんお気づきでしょうか。新入職員は4月から既に変更になっているので、ようやく看護部職員全員に行き渡りました。

型は2パターンあり、色は看護師が白かピンク、補助者は水色となっています。自分に合ったユニフォームを職員自身が選んでいます。

白地のユニフォームはアクセントとして濃いピンク色が使われていて、すっきりとしたフォルムに仕上がりましたがいかがでしょうか。もちろん、機能性も考慮し、ポケットの位置やアクセントも実は当院オリジナルで、生地にもこだわりがあります。

患者さんに一番近い存在の看護スタッフは、言葉遣いなどのマナーや態度はもちろんのこと、清潔感等の身だしなみは重要となります。また、着用する者としてはその機能性を良くすることで、働きやすさも加わるわけですから、両者にとってよいものである必要があります。

今回のユニフォーム変更は、看護しやすく働きやすい理想の現場に近づいていることを期待したいです。



編集後記

今年の10月からマイナンバー制度が導入されました。皆さんのお手元に、この世で自分だけの12桁の番号は届きましたでしょうか？私、あさのちゃんには届いておりませんが、きっと住民票がないからなのでしょう。くまもんやひこにゃん、ふなっしーもそうかしら。

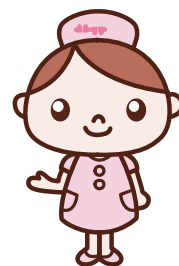
さて、携帯番号よりも1桁多いこの番号は、今後とても重要な役割を持つことが予測され、自分の身分を証明する一番高いレベルの証明書になります。免許証、保険証、パスポートなど、犯罪等での不正

なやりとりがあらってしまうように、このマイナンバーもそうなりかねません。そのため、取り扱いの規制も厳しく、第一に国民の皆さんがその重要性を把握して、紛失しないようにしてほしいとのことですよ。

マイナちゃんというライバルも浮上し、密かに敵対心を持ちそうになっていますが、当院の診察券すべてに、私、あさのちゃんが描かれていますので、その点では上かしら？？当院の診察券も無くさないようにお願いしますね。



マイナンバーキャラクター
マイナちゃん



浅ノ川総合病院
イメージキャラクター
あさのちゃん

問い合わせ先

広報誌に関する質問・投稿・ご意見などは広報室へお願いいたします。

TEL 076-252-2101(代) メールアドレス: kouhou-1204@asanogawa-gh.or.jp